

# 垓下の歌

項

籍

力山を抜き、世を蓋う

時に利あらず、驪逝かず

驪の逝かざる、奈何すべき

虞や虞や、若も奈何せん

【作者】項羽（前二三二年～前二〇二年）秦末の武将。後の西楚の霸王。劉邦と天下の覇を争い、垓下で敗れ去る。名は籍。羽は字

になる。項羽は、叔父の項梁とともに挙兵し、漢王劉邦と呼応して秦を滅ぼし、西楚の霸王となる。後、劉邦と天下の覇を争ったが、垓下の戦いで大敗、烏江で自殺。二千年前、楚の項羽と漢の劉邦が天下を争い、垓下で項羽軍は敗れた。

【語釈】\*氣蓋世：氣概が天下をおおいつくしている。 \*驪不逝：愛馬は進まない。 \*虞：〔ぐ・Yu20〕項羽の寵姫、虞美人のこと。

【背景】垓下歌：楚の項羽と漢の劉邦が天下を争い、やがて垓下で項羽軍は敗れようとするが、その最終段階で、項羽が滅亡を悟

つた時に歌ったのものとされ、『史記・項羽本紀』や『古詩源』に遺されている。烏江で項羽が亡ぶ前日、四面に楚歌の聲が響き渡った時、項羽と虞姫が別杯を交わしたときの情景を歌ったものである。

【通釈】その勢威は山をも改造して引き抜き、氣概は広く天下を掩っていた。時節、時運はわたしに利していなくて、愛馬の驪（すゐ）は進もうとしない。愛馬の驪（すゐ）が進もうとしないのを、本当にどのようにすべきなのか、どうしようもない。虞（美人）よ、虞（美人）よ、貴女をどのようにしようか。